公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ROSELLE CLUB R		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別活動、集団活動を通して未就学児が次年度に向けスムーズに移行できる支援を行なっている。	次年度に備えた活動内容に取り組みながら異年齢との交流を多く取り入れ、年上であることを実感しながら意欲向上を図っている。集中する時間「学習」を毎日取り入れ、集中力の持続時間の向上を図っている。	職員間で活動内容を共通理解しながら新たな取り組みの提案を実施している。個々の段階に合わせた活動内容を模索している。
2	事業所内で1階の異年齢児(年下)との交流の機会が定期的に行われている。	年下の児童の模範となるよう意識付けを行いながら自信が持てるような活動を取り入れている。	異年齢(年下)との交流を経てモチベーションアップにつながる声かけや新たな活動の提案を実施している。
3	地域の商業施設等への買い物支援等の取り組みが充実している。	地域に商業施設が多いので定期的に買い物支援やイベント参加を行なっている。他者への挨拶を自分からできるよう都度声掛けをしている。	地域の情報を周知していきながら保護者参加イベントなどを実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスの受け入れを実施しているが児童発達支援の活動内容を中心としているため高学年との兼ね合いで難しい時がある。	児童発達支援の活動と放課後等デイサービスの活動を分けて行う際十分な支援内容の確立が難しい現状が出てくるのが懸念される。	児童発達支援と放課後等デイサービスが合同で実施できる活動内容を事業所で考えていく。
2	児童に対して個々の対応、送迎等での共通した申し送りができる職員とまだ対応が難しい職員の育成。	連絡事項等の共通理解、徹底した周知が課題となる。	毎日のブリーフィング等で申し送り事項を確認し、記録に残していきながら都度読み返せるような形で残していく。
3	地域の他事業所との交流の機会を設ける取り組みが少ないと感じる。	地域の他事業所との交流の場を設ける機会が実施されていない現状がある。	地域の情報を周知しながら交流の場を検討していく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ROSELLE CLUB R		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別活動、集団活動を通して未就学児の良いお手本となることで意欲、自信を持てる。	職員に代わって活動の指示役に入ることによって年上であることを実感しながら意欲向上を図っている。集中する時間「学習」を毎日取り入れ、宿題等の時間を設けている。	職員間で活動内容を共通理解しながら新たな取り組みの提案を実施している。
2	プログラムに沿った活動だけでなく児童の意見を取り入れた活動を実施している。	活動意欲を高める目的で児童から活動内容を提案してもらいニーズに合った活動を普段のプログラム以外でも取り入れています。	職員の配置を増やしながらかより多くの意見を取り入れ実施できる体制づくりを目指します。
3	地域の商業施設等への買い物支援等の取り組みが充実している。 □	地域に商業施設が多いので定期的に買い物支援やイベント参加を行なっている。他者への挨拶を自分からできるよう声掛けをしている。	地域の情報を周知していきながら保護者参加イベントなどを実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービスと児童発達支援の受け入れを実施しているが児童発達支援の活動内容を中心としているため簡易的な内容になってしまうことがある。	放課後等デイサービスと児童発達支援の活動を分けて行う際十分な支援内容の確立が難しい現状が出てくるのが懸念される。	放課後等デイサービスと児童発達支援が合同で実施できる活動内容を事業所で考えていく。
2	児童に対して個々の対応、送迎等での共通した申し送りができる職員とまだ対応が難しい職員の育成。	連絡事項等の共通理解、徹底した周知が課題となる。	毎日のブリーフィング等で申し送り事項を確認し、記録に残していきながら都度読み返せるような形で残していく。
3	地域の他事業所との交流の機会を設ける取り組みが少ないと感じる。	地域の他事業所との交流の場を設ける機会が実施されていない現状がある。	地域の情報を周知しながら交流の場を検討していく。